

大学コンソーシアム富山 平成 29 年度「環境政策論」実施報告

事業名	大学コンソーシアム富山 平成 29 年度単位互換開講科目「環境政策論」
実施機関	富山国際大学
趣旨・目的	富山県で実施されている様々な環境政策と活動内容、さらに企業や団体の取組み等と紹介し、持続可能な社会を維持する活動への理解・協力を得る事を目的とする。 平成 28 年 5 月に開催された G7 富山環境大臣会合を契機にスタートした科目であり、引き続き継続して実施するものである。
開催日時	第 1 回：平成 29 年 8 月 21 日(月)～24 日(木)の 4 日間 9：00～16：30(午前 2 限、午後 2 限)
開催場所	8 月 21 日～23 日、富山県農協会館 8 階 802 会議室 8 月 24 日、富山国際大学サテライト・オフィス cic3 階
参加人数	学生 38 名 【内訳】・高岡法科大学 2 名 ・富山短期大学 2 名 ・富山高等専門学校 21 名 ・富山国際大学 13 名
事業内容	<p>第 1 回：8 月 21 日(月)</p> <p>①はじめに/富山県の環境政策概論(富山国際大学/生活環境文化部)</p>  <p>②立山の自然環境と災害(立山カルデラ砂防博物館)</p>  <p>③富山湾における豊かな海づくり(水産漁港課)</p> 

④生物多様性の保全と持続可能な利用(自然保護課)



第2回：8月22日(火)

⑤富山県の公害の歴史(イタイイタイ病資料館)



⑥生活環境の保全のために(環境保全課)



⑦水と緑の森づくりと県民との協働(森林政策課)



⑧YKK グループ環境への取り組み(YKK(株))



第3回：8月23日(水)

⑨地球温暖化対策の現状について(環境政策課)



⑩廃棄物の3Rの推進について(環境政策課)



⑪中国の環境問題(富山大学極東地域研究センター)



⑫国際協力と海洋環境保全((公財)環日本海環境協力センター)

第4回：8月24日(木)

⑬～⑭施設見学

再生可能エネルギー関連施設、イタイイタイ病資料館 等



⑮まとめ

大学コンソーシアム富山 平成 29 年度「とやま地域学」実施報告

事業名	大学コンソーシアム富山 平成 29 年度単位互換開講科目「とやま地域学」
実施機関	富山国際大学
趣旨・目的	富山の歴史・文化、富山湾、立山連峰に代表される自然環境、そしてものづくりをはじめとする産業など、データやフィールドワーク(現地研修)を通して「とやま」を知ること、そして 21 世紀の富山や世界の姿を展望する。
開催日時	平成 29 年 8 月 28 日(月)～31 日(木)の 4 日間 1 日 4 コマ×4 日間の集中講義
開催場所	富山県民会館(富山市新総曲輪 4-18)
参加人数	学生 102 名 【内訳】・富山大学 56 名 ・高岡法科大学 16 名 ・富山高等専門学校 3 名 ・富山国際大学 27 名
事業内容	<p>第 1 回 : 8 月 28 日(月)</p> <p>①富山県の歴史と文化(万葉時代～中世)</p> <p>②富山県の歴史と文化(近世～)</p> <p>③富山の近代史—近代化の始まり(明治時代～大正時代) (前富山国際大学 現代社会学部 非常勤講師 米原 寛 氏)</p>  <p>④富山の文学・文化 (高志の国文学館 主任・学芸員 綿引 香織 氏)</p> 

第2回：8月29日(火)

⑤富山の自然「富富富(ふふふ)」

(富山県農林水産総合技術センター農業研究所 育種課課長 小島 洋一朗 氏)



⑥富山の自然

(富山市科学博物館 主任学芸員 増渕 佳子 氏)



⑦富山の自然と災害①

⑧富山の自然と災害②

(元富山県土木部長 白井 芳樹 氏)



第3回：8月30日(水)

⑨～⑪現地研修

立山カルデラ砂防博物館、高志の国文学館、富山市科学博物館

(富山国際大学 現代社会学部 教授 尾畑 納子 氏)



第4回：8月31日(木)

⑫データから見る富山の姿

(富山国際大学 客員教授 浜松 誠二 氏)



⑬富山の政策と未来を語る

(富山県知事 石井 隆一 氏)



⑭富山の政策を考える枠組み

⑮今後の富山づくり(意見交換を含む)

(富山国際大学 客員教授 浜松 誠二 氏)

大学コンソーシアム富山 平成 29 年度単位互換開講科目
「現代社会と法」実施報告

事業名	大学コンソーシアム富山 平成 29 年度単位互換開講科目 「現代社会と法」
実施機関名	高岡法科大学
趣旨・目的	<p>昭和 22 年(1947)5 月 3 日に日本国憲法が施行されて、本年は 70 年目の節目にあたります。その間、日本国憲法は、日本の法制度の頂点をなす最高法規として、日本の国家、社会の仕組の大枠を形成し、人権を保障すると同時に、個々の利益の現実の調整原理として、様々な社会ルールの根拠となり、またその限界を画してきました。</p> <p>一方、日本国憲法が施行された当時から約 70 年経過し、その間、社会が大きく変化するなかで様々な問題が生じており、それに関して憲法が法的にどう対処すべきなのか、あるいは憲法の条文を検討すべきなのかといったことが盛んに議論されています。それゆえに、日本国憲法を取り上げて様々な問題点に関して考察することは我々にとって重要なことです。</p> <p>このような観点から、今年度は統一テーマを「日本国憲法施行 70 年をむかえて」とし、日本国憲法の様々な分野について、著名な講師による講義を実施いたします。なお、本講義は大学コンソーシアム富山の事業として他大学学生及び県民にも広く聴講を呼びかけることで、地域貢献の一環としての役割も併せもちます。</p>
開催日時	平成 29 年 8 月 28 日 (月) ～9 月 1 日 (金)
開催場所	高岡法科大学 大講義室 1 高岡市戸出石代 307-3
参加人数	学生計 26 名：富山大学 (2 名) ・富山短期大学 (1 名) ・富山高等専門学校 (5 名) 高岡法科大学 (18 名) その他・一般受講者 計 56 名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 改めて憲法を考えるー今年に憲法施行 70 年ー (伊藤塾塾長・弁護士 伊藤真氏) <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 立憲主義とはどういうものか など 第 2 回 憲法第 13 条と第 9 条 など 第 3 回 自民党の目指すものと主権者としてすべきこと など 憲法改正をめぐる諸問題 (日本大学名誉教授 百地 章氏) <ul style="list-style-type: none"> 第 4 回 国家と憲法、前文、天皇、家族について 第 5 回 憲法第 9 条について 第 6 回 緊急事態事項、憲法改正手続きについて





- ・ 憲法の歴史（高岡法科大学法学部教授 高倉 史人氏）
- 第7回 大日本帝国憲法成立史
第8回 日本国憲法成立史
第9回 大日本帝国憲法と日本国憲法の比較



- ・ 日本国憲法の人権保障（関西大学大学院法務研究科教授 木下 智史氏）
- 第10回 日本国憲法における「個人の尊重」の意義
第11回 憲法上の自由の限界＝「公共の福祉」の意味
第12回 憲法上の権利の保障をめぐる具体的事例から



- ・ 憲法改正 三つの論点（平成国際大学名誉教授 高乗 正臣氏）
- 第13回 日本国憲法の成立過程の問題点
第14回 憲法第9条解釈の欺瞞性
第15回 日本の国柄と憲法



- ・ レポート指導（高岡法科大学法学部教授 高倉 史人氏）
- ※学生のみ

大学コンソーシアム富山 平成29年度「英語プレゼンテーション講義（初級編）」実施報告

事業名	英語プレゼンテーション講義（初級編）-学生が考えるインバウンド対策-
実施機関名	富山県立大学
趣旨・目的	学生の英語によるプレゼンテーション能力の育成を図る。
開催日時	平成29年9月11日（月）9時20分～16時30分 9月12日（火）9時20分～16時30分 9月14日（木）9時20分～16時30分 9月15日（金）9時20分～14時50分
開催場所	富山県民会館702号室 （富山市新総曲輪4-18）
参加人数	25名 （富山大学2名、富山国際大学2名、富山高等専門学校10名、富山県立大学1名、留学生6名、外部講師2名、担当教員1名、職員1名）
事業内容	<p>「学生が考えるインバウンド対策」をテーマに、文献調査、フィールドワークと外国人留学生との協働作業を通して、学生の視点で富山のセールスポイントを調べ上げ、その内容を海外観光客向けの英語プレゼンテーションとして5分間にまとめ、発表する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="411 1205 852 1536">  <p>留学生との協働作業</p> </div> <div data-bbox="935 1205 1375 1536">  <p>英語プレゼンテーション本番</p> </div> </div> <div data-bbox="411 1621 852 1953">  <p>留学生からのコメント</p> </div>

大学コンソーシアム富山 平成29年度「航空機入門」実施報告

事業名	航空機入門
実施機関名	富山県立大学
趣旨・目的	航空機のしくみや開発・生産等に関する講座を開講するもの。
開催日時	平成29年8月22日(火) 10時30分～16時10分 8月23日(水) 10時30分～16時10分 8月24日(木) 10時30分～14時30分
開催場所	富山県民会館702号室 (富山市新総曲輪4-18)
参加人数	39名 (富山大学6名、富山県立大学16名、一般11名、外部講師3名、担当教員1名、職員2名)
事業内容	<p>航空機のしくみや開発、生産等、航空機の技術と製造に関わる幅広い知識を習得し、航空機製造業や航空機運送事業について理解を深める。</p>  <p>松島教授による講義風景</p>

環境政策論

担当教員: 現代社会学部・教授 上坂 博亨

授業の概要	富山県の環境政策についてまなぶ。特に平成28年5月に開催されたG7富山環境大臣会合(平成28年5月)を踏まえその成果や富山県の取組みを紹介する。持続可能な社会を形成するための取組みについても考える。
キーワード	環境政策 負荷 社会経済 持続可能
到達目標	1. あらゆる活動(企業、生活者等)において環境保全に配慮した行動が求められていることを考慮し、県民や事業者に必要な環境法令や自主的な行動について理解を深める。 2. 富山県の特徴的な環境施策について理解を深め、県の環境政策や取組みを説明できるようになる。

現代社会学部

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	⑧環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
◎	○	◎		

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学習指導・自主活動
◎	○				

授業計画

回数	授業内容詳細(予定)
第1回-説明	オリエンテーション(上坂博亨/富山県生活環境文化部) はじめに/富山県の環境政策概論
第2回-説明	立山の自然環境と災害(富山県立山カルデラ砂防博物館)
第3回-説明	富山湾における豊かな海づくり(富山県農林水産部水産漁港課)
第4回-説明	生物多様性の保全と持続可能な利用(富山県生活環境文化部自然保護課)
第5回-説明	富山県の公害の歴史(富山県イタイイタイ病資料館)
第6回-説明	生活環境の保全(富山県生活環境文化部環境保全課)
第7回-説明	水と緑の森づくり(富山県農林水産部森林政策課)
第8回-説明	企業での環境保全の取組み(調整中)
第9回-説明	地球温暖化対策の現状(富山県生活環境文化部環境政策課(地球環境係))
第10回-説明	廃棄物の3Rの推進について(富山県生活環境文化部環境政策課(廃棄物対策班))
第11回-説明	北東アジアの環境問題(調整中)
第12回-説明	国際協力と海洋環境保全((公財)環日本海環境協力センター)
第13回-説明	施設見学(上坂 博亨) 【行程予定】富山県庁前 → イタイイタイ病資料館 → 富山ペレット → 常西公園小水力発電所 → 西番小水力発電所 → 仁右工門用水小水力発電所 → 富山国際学園サテライトオフィス(CiC)
第14回-説明	同上
第15回-説明	まとめ(上坂 博亨)

評価方法	レポート(50%)、授業への積極的取組姿勢(50%)
------	----------------------------

使用資料<テキスト>	必要に応じて資料を配布	使用資料<参考図書>	講義にて提示
------------	-------------	------------	--------

授業外学修等	今回は8月21日から24日までの集中とする。会場:富山県農協会館及び富山国際学園サテライトオフィス(CiC 3階) 授業時間に課題を提示する。
授業外質問方法	電子メールによる質問を随時受け付ける。または、授業の終了時に受け付ける。
オフィス・アワー	

とやま地域学

担当教員：教授 尾畑納子

授業の概要	国は地方での雇用拡大など地方創生に向け動き、昨年5月には富山でG7環境会議が開催され、富山県が全国的に注目されるようになった。本講義では、富山に関する情報をより広く学ぶため、3つの分野から解説する。一つは富山の歴史・文化、産業を歴史的な視点から学ぶ。次に富山の特徴でもある自然環境に着目し、水、災害、くらしなどから富山の特徴を学ぶ。これらを踏まえ、富山の将来を展望するため、富山県のデータを基に分析し、また富山県知事の政策をお聞きしながら、年配の方から若者まで活力ある富山の地域づくりについて各自が考える。
キーワード	富山の歴史と 富山の自然 水と災害 地方の未来創
到達目標	目標1: 富山の歴史文化、環境、産業の現状などを学び、特色を理解すること。 目標2: 富山の自然、災害について学び、持続可能な安全な地域づくりを考える。 目標3: 政策の専門家の講義、現地研修を通して、富山、北陸地域の活性化について受講を通して考える。

現代社会学部

ディプロマポリシー	1.「人」としての能力(人間性の向上)
カリキュラムポリシー	①学生の基礎的能力の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
		○		

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学習指導・自主活動
○				○	

授業計画

回数	授業内容詳細	標準時間
第1回-説明	8月28日(月) オリエンテーション 越中(富山県)の歴史と文化(万葉時代～中世) 講師:前富山国際大学 現代社会学部 非常勤講師 米原 寛 氏	
第1回-予習		0
第1回-復習		0
第2回-説明	8月28日(月) 越中(富山県)の歴史と文化(近世～) 講師:前富山国際大学 現代社会学部 非常勤講師 米原 寛 氏	
第2回-予習		0
第2回-復習		0
第3回-説明	8月28日(月) 富山の近代史-近代化の始まり(明治時代から大正時代) 講師:前富山国際大学 現代社会学部 非常勤講師 米原 寛 氏	
第3回-予習		0
第3回-復習		0
第4回-説明	8月28日(月) 富山の文学・文化(高志の国文学館) 講師:主任・学芸員 綿引 香織 氏	
第4回-予習		0
第4回-復習		0
第5回-説明	8月29日(火) 富山の自然「富富富(ふふふ)」 講師:富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 育種課 課長 小島 洋一朗 氏	
第5回-予習		0
第5回-復習		0
第6回-説明	8月29日(火) 富山の自然 講師:富山市科学博物館 主任学芸員 増淵 佳子 氏	
第6回-予習		0
第6回-復習		0
第7回-説明	8月29日(火) 富山の自然と災害① 講師:元富山県土木部長 白井 芳樹 氏	
第7回-予習		0
第7回-復習		0

第8回-説明	8月29日(火) 富山の自然と災害② 講師:元富山県土木部長 白井 芳樹 氏		
第8回-予習			0
第8回-復習			0
第9回-説明	8月30日(水) 現地研修(富山県内) 本講義に関連する施設を視察予定		
第9回-予習			0
第9回-復習			0
第10回-説明	8月30日(水) 現地研修(富山県内) 本講義に関連する施設を視察予定		
第10回-予習			0
第10回-復習			0
第11回-説明	8月30日(水) 現地研修(富山県内) 本講義に関連する施設を視察予定		
第11回-予習			0
第11回-復習			0
第12回-説明	8月31日(木) データから見る富山の姿 講師:富山国際大学 客員教授 浜松 誠二 氏		
第12回-予習			0
第12回-復習			0
第13回-説明	8月31日(木) 富山の政策を語る 富山県知事 石井 隆一 氏		
第13回-予習			0
第13回-復習			0
第14回-説明	8月31日(木) 富山の政策を考える枠組み 講師:富山国際大学 客員教授 浜松 誠二 氏		
第14回-予習			0
第14回-復習			0
第15回-説明	8月31日(木) 今後の富山づくり(意見交換を含む) 講師:富山国際大学 客員教授 浜松 誠二 氏		
第15回-予習			0
第15回-復習			0
第16回-説明	まとめ、レポート提出 これまでの学びについて整理したものを参考に、富山の未来のために必要なこと、自分は何ができるかについて考え、まとめる。		
第16回-予習			0
第16回-復習	富山の活性化策について、今後の講義や実習の中で活かせる工夫をしてほしい。		0

評価方法	受講態度及び毎時の課題、現地研修(50%)、レポート(50%)をもって総合的に評価する。 試験は実施しない。
------	---

使用資料<テキスト>	当日テキスト配布(無料)	使用資料<参考図書>	富山県のHPを参照。 各講師が情報提供を行う。
------------	--------------	------------	----------------------------

授業外学修等	授業前後の学習に関しては、本要綱の到達目標を踏まえ初日のオリエンテーションで説明を行う。
授業外質問方法	授業に関する質問などは毎回質問票を配布して各講師に提出する。 その他、休憩時間などを利用して質問などに応じる。
オフィス・アワー	

授業科目名	現代社会と法	授業科目区分				職名	担当教員
		対象学期	対象学年	単位数	授業方法		
		大学コンソーシアム富山 単位互換開講科目					
英 文 名		夏期集中	1年	2単位	講義	教授	高倉 史人 オムニバス形式
授業概要	昭和22年（1957）5月3日に日本国憲法が施行されて、本年は70年目の節目にあたる。その間、日本国憲法は、日本の法制度の頂点をなす最高法規として、日本の国家、社会の仕組の大枠を形成し、人権を保障すると同時に、個々の利益の現実の調整原理として、様々な社会ルールの根拠となり、またその限界を画してきた。一方、日本国憲法が施行された当時から約70年間経過し、その間、社会が大きく変化するなかで様々な問題が生じている。それゆえに、日本国憲法を取り上げて様々な問題点に関して考察することは重要である。本講義は「日本国憲法施行70年をむかえて」をテーマとして、日本国憲法の様々な分野について、著名な講師による講義を実施する。						
到達目標	①憲法の掲げる基本理念を理解すること。 ②憲法の果たしてきた役割をしっかりと認識し、憲法に対して真摯に向き合うことができること。 ③上記のことを踏まえ、自分の考えで議論したり、レポートを書くことができること。						
コンピテンシー（重視する能力）		協調性	傾聴力	創造力	論理的思考力		
			◎		○		

授業科目との関連	履修の前提となる科目	関連する科目
		憲法入門、憲法A、憲法B、行政法、地方自治法

授業計画	回数	
	第1回	改めて憲法を考える-今年は憲法施行70年「立憲主義とはどういうものかなど」
第2回	同 「憲法第13条と第9条など」	
第3回	同 「自民党の目指すものと主権者としてすべきことなど」	
第4回	憲法改正をめぐる諸問題「国家と憲法、前文、天皇、家族について」	
第5回	同 「憲法第9条について」	
第6回	同 「緊急事態事項、憲法改正手続きについて」	
第7回	憲法の歴史 「大日本帝国憲法成立史」	
第8回	同 「日本国憲法成立史」	
第9回	同 「大日本帝国憲法と日本国憲法の比較」	
第10回	日本国憲法の人権保障「日本国憲法における『個人の尊重』の意義」	
第11回	同 「憲法上の自由の限界=『公共の福祉』の意味」	
第12回	同 「憲法上の権利の保障をめぐる具体的事例から」	
第13回	憲法改正 三つの論点「日本国憲法の成立過程の問題点」	
第14回	同 「憲法第9条解釈の欺瞞性」	
第15回	同 「日本の国柄と憲法」	

評価方法	レポート(60%) 授業に対する姿勢・態度(40%)を総合的に評価する。	
使用資料	テキスト	各講義にレジュメを配布
	参考図書	高乗正臣・奥村文男編『プラクティス・法学実践教室<2>』成文堂(1,900円+税)
受講上の注意	毎回、出席をとる。遅刻や無断欠席は厳禁。講義中の私語や携帯電話等の使用禁止。 六法を持っている者は持参すること。 本講義は、大学コンソーシアム富山の事業として他大学生及び県民にも広く聴講を呼びかけることで、地域貢献の一環としての役割も併せもっている。	
事前・事後学習(学習課題)	事前	憲法に関連する図書の講読。または、新聞やニュースなどで取り沙汰される憲法について見聞を広める。
	事後	講義内容の復習
オフィスアワー	授業終了時	
備考		

英語プレゼンテーション講義（初級） －学生が考えるインバウンド対策－		配当学年	1～4年
		開講学期	集中講座（4日間）
		単位数	1
		単位区分	
担当教員	清水 義彦	関連する 学習・教育目標	
授業の目標	「学生が考えるインバウンド対策」をテーマに、文献調査、フィールドワークと外国人留学生との協働作業を通して、学生の視点で富山のセールスポイントを調べ上げ、その内容を海外観光客向けの英語プレゼンテーションとして5分間にまとめ、発表する。		
学生の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の留学生と協働して、4日間で300wordの英語原稿をまとめることができる。 ・ 5分間の英語プレゼンテーションをすることができる。 		
授業計画	<p>【1日目】 第1回：グローバル社会で英語は必要か？－外部講師を招いて 第2回：英文を書くための基礎1 －3C（correct, clear, concise） 第3回：調査1、原稿作成1 －県の観光政策、テーマ設定、初稿作成 第4回：英語スピーチ1（2分間） －発表、ピアレビュー（相互評価）1 ＜自宅学習：初稿の完成＞</p> <p>【2日目】 第5回：英文を書くための基礎2 －英語ロジック（日本語と英語の違い）→原稿修正 第6,7回：フィールドワーク －留学生と富山市内で情報収集（写真、ビデオ） 第8回：原稿作成2 －生きた情報を盛り込み、第2稿完成 ＜自宅学習：最終稿完成＞</p> <p>【3日目】 第9回：英語スピーチ2（4分間） －グループ内での発表、留学生とピアレビュー2 第10回：英語プレゼン指導1 －「英語プレゼン」とは？ 第11回：英語プレゼン指導2 －スライド作成 第12回：英語プレゼン指導3 －グループ内での発表、留学生とピアレビュー3 ＜自宅学習：発表練習＞</p> <p>【4日目】 第13,14,15回：発表会&振り返り －英語プレゼン（留学生が審査、ディスカッション担当）</p>		
キーワード	英語プレゼンテーション、英語ロジック、富山を再発見、外国人留学生との協働		
成績評価法	パフォーマンス(スピーチ&プレゼン)の完成度、発表原稿の完成度を総合的に評価		
成績評価基準	英語スピーチ&英語プレゼン 50%（1日目10%、3日目10%、4日目30%） 英文原稿 50%（初稿10%、第2稿10%、最終稿30%）		
教科書・教材参考書等	中山裕木子（2009）：技術系英文ライティング教本，日本工業英語協会		
関連科目・履修条件等	河合ゆみ子（2013）：技術系英語プレゼンテーション教本，日本工業英語協会 HANDBOOK TOYAMA JAPAN－日本の富山がよくわかる－		
履修上の注意事項や学習上の助言	教科書は「技術系英文・・・」となっていますが、文系学部の学生にこそ役立つ教科書です。英語で真意を100%伝える基礎基本の3C（correct, clear, concise）を重視し、これまでの一般英語をより使いこなす技を会得できます。文系人間の私は「目から鱗」の教本でした。本講座は英検準2級、TOEIC400点前後の英語力の学生が満足することを意識しています。		
学生からの質問への対応方法	授業後、休み時間など対応する。 E-mail： shimizu@pu-toyama.ac.jp にて随時対応する。		

航空機入門 Introduction to Aviation		配当学年	1～4年
		開講学期	前期・集中講座
		単位数	1
		単位区分	
担当教員	富山県立大学教授 坂村芳孝 " 客員教授 戸田信雄	関連する 学習・教育目標	
授業の目標	航空機のしくみや開発、生産等、航空機の技術と製造に関わる幅広い知識を習得し、航空機製造業や航空機運送事業について理解を深める。		
学生の到達目標	① 航空機の歴史、開発、生産、安全性についてその概要を説明することができる。 ② 航空工学の基礎（空気力学・飛行力学）を理解し、その概要を説明することができる。		
授業計画	① ガイダンス／航空機の歴史 ② 航空機産業の特色／飛行のしくみ ③ 航空機の開発と生産 ④ 航空機の安全性／宇宙ロケットの基礎 ⑤ 航空機部品生産の現場 ⑥ 空気力学の基礎 ⑦ 飛行力学の基礎 ⑧ 航空機に関する最新の研究トピック／まとめ		
キーワード	航空機、飛行機、ロケット、型式証明、複合材料、応力、疲労破壊、ベルヌーイの式、渦、揚力、抗力、静安定		
成績評価法	レポートによって評価する。		
成績評価基準	レポート（100%）		
教科書・教材参考書等	参考書：室津義定「航空宇宙工学入門 第2版」森北出版 ISBN：9784627690325 牧野光雄「航空力学の基礎 第3版」産業図書 ISBN：9784782841044		
関連科目・履修条件等	高等学校で物理を履修していることが望ましい。		
履修上の注意事項や学習上の助言	講義日に資料を配付するので、授業後に復習し、理解の助けとすること。		
学生からの質問への対応方法	E-mail: sakamura@pu-toyama.ac.jp		

大学コンソーシアム富山 平成 29 年度単位互換開講科目
「災害救援ボランティア論」実施報告

事業名	大学コンソーシアム富山 平成 29 年度単位互換開講科目 「災害救援ボランティア論」
実施機関名	富山大学
趣旨・目的	災害救援ボランティア育成のカリキュラムをコアに，富山県の災害と防災対策，富山大学の研究者による独自の研究内容などを加えて，地域防災においてリーダーシップを発揮できる人材となるための学修を提供する。
開催日時	平成 30 年 2 月 19 日（月）から 23 日（金）まで
開催場所	富山大学五福キャンパス（富山市五福 3190）
参加人数	学生 105 名 【内訳】・富山大学（87 名） ・高岡法科大学（18 名）
事業内容	<p>2/19（月）</p> <p>第 1 回 災害救援ボランティアと危機管理医学 （富山大学大学院医学薬学研究部教授 奥寺 敬 氏）</p> <p>第 2 回 災害時の医療救援活動 （富山大学大学院医学薬学研究部准教授 若杉 雅浩 氏）</p> <p>第 3 回 災害ボランティア活動の基本 （災害救援ボランティア推進委員会委員長 澤野 次郎 氏）</p> <p>第 4 回 富山県の防災対策 （富山県防災・危機管理課国民保護・地域防災担当課長 大木 英文 氏）</p> <p>2/20（火）</p> <p>第 5 回 トレーニング 倒れている人をどう救うか （富山大学人間発達科学部教授 布村 忠弘 氏， 災害救援ボランティア推進委員会委員 宮崎 賢哉 氏）</p> <p>第 6 回 被災地での安全衛生とコミュニケーション （災害救援ボランティア推進委員会委員 宮崎 賢哉 氏）</p>

第7回 災害時のリーダーシップとチームビルディング
(災害救援ボランティア推進委員会委員 宮崎 賢哉 氏)

2/21 (水)

第8回 都市における減災対策 (災害のしくみ)
(富山大学人間発達科学部教授 梶座 圭太郎 氏)

第9回 都市における減災対策 (放射能汚染と望まない復興)
(富山大学人間発達科学部教授 梶座 圭太郎 氏)

第10回・第11回 救命救急講習(心肺蘇生法, AEDの使用法, 止血法)
(富山市消防局)

2/22 (木)

第12回・第13回 施設見学・災害体験
(富山県広域消防防災センター四季防災館)

2/23 (金)

第14回 地形図から災害を予測する
(富山大学人文学部准教授 大西 宏治 氏)

第15回 防災机上訓練 DIG: 洪水ハザードマップの活用
(富山大学人文学部准教授 大西 宏治 氏)



グループワーク



救命講習



消火体験 (四季防災館)

授業科目名(英文名) / Course title	災害救援ボランティア論 / Leadership of Disaster Volunteer				
担当教員(所属) / Instructor	奥寺 敬(医学部医学科), 若杉 雅浩(医学部医学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 後期 他	対象所属 / Eligible Faculty	全学部		
時間割コード / Registration Code	106604	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年 , 4年	単位数 / Credits	2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学修目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>災害救援ボランティア推進委員会は阪神・淡路大震災の教訓を基に、大災害を想定した災害救援ボランティアリーダーの育成・登録活動に当たる民間団体として設立されました。</p> <p>「わが身わが命は自分で守る」というボランティアの基本精神を発揮して、助け合いを大切にしながら、いざという時には率先して自らがその場においてリーダーとなり、周りの人に呼びかけて一人でも多くの人を救い、被害を最小限度に食い止める活動を行います。本カリキュラムでは、この災害救援ボランティアを包括し、富山大学と地域の共同研究の成果を加えた本学独自の科目です。</p> <p>1995年7月17日にライフラインの関係者の那須翔(東京電力会長・当時)、渡辺宏(東京ガス会長・当時)、河野俊二(東京海上火災保険社長・当時)、児島仁(日本電信電話社長・当時)、報道関係者の吉村秀實(日本放送協会解説主幹・当時)、行政経験者の長岡實(日本たばこ産業顧問・当時)教育関係者の澤野裕治(日本法制学会理事長・当時)らが中心となって会をボランティアの民間任意団体として結成し、委員長に石原信雄(元内閣官房副長官)を選出し事務局を公益財団法人日本法制学会内に置きました。会の目的に『大地震等の大規模災害に備えて、災害救援を希望する人たちのための講座を行い、災害救援ボランティアを日常的に教育訓練し、地域防災に貢献していくこと』を掲げ、以後、災害救援ボランティア育成及び地域防災の推進、防災の普及啓発に取り組んでいます。</p> <p>「災害救援ボランティア論」では、この災害救援ボランティア育成のカリキュラムをコアに、富山県の災害と防災対策、富山大学の研究者による独自の研究内容などを加えて、地域防災においてリーダーシップを発揮できる人材となるための学修を提供します。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>総務省消防庁が示した基準に基づき、災害救援ボランティア推進委員会が推進する認定資格「セーフティリーダー(SL)」及び総務省消防庁の救命講習である、普通救命講習(AED含む)を取得すること。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
平成30年2月19日(月)から2月22日(木)までの4日間で実施します。					
講義, 実習, 演習, 学外施設見学					
第1回 災害救援ボランティアと危機管理医学(講義)					
第2回 災害時の医療救援活動(講義)					
第3回 災害ボランティア活動の基本(講義)					
第4回 富山県の防災対策(講義)					
第5回 トレーニング 倒れている人をどう救うか(実習)					
第6回 被災地での安全衛生とコミュニケーション(講義)					
第7回 災害時のリーダーシップとチームビルディング(講義)					
第8回 地形図から災害を予測する(講義)					
第9回 防災机上訓練DIG 洪水ハザードマップの活用(実習)					
第10回 都市における減災対策(講義)					
第11回 都市における減災対策(講義)					
第12回 普通救命(心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法)(実習)					
第13回 普通救命(心肺蘇生)(講義)					
第14回 災害体験(地震体験、消火体験)(実習)					
第15回 災害体験(煙体験、暴風雨体験)(実習)					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学修 シラバスの授業計画の項目について、事前に関連文献やインターネット等を利用して自己学修を行う。					
事後学修 その日の重要なポイントがどこかを、教材・自分のノートで再確認を行い、知識・技能の定着を図る。					
キーワード / Keywords	災害救援, ボランティア, 救命活動, 地域防災, 自主防災				
履修上の注意 / Notices	実習にふさわしい服装で受講すること				
教科書・参考書等 / Textbooks	(予定) 災害・健康危機管理ハンドブック 診断と治療社 ISBN 9784787815316				
成績評価の方法 / Evaluation	講義・実習の参加態度及びレポートによる総合評価				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

平成29年度 単位互換科目 履修者数

【コンソーシアム開講科目】

履修者所属機関名 科目名(実施機関)	富山大学	富山県立大学	高岡法科大学	富山国際大学	富山短期大学	富山福祉短期大学	富山高等専門学校	合計
【前期】 環境政策論 (富山国際大学)	0	0	2	13	2	0	21	38
【前期】 とやま地域学 (富山国際大学)	56	0	16	27	0	0	3	102
【前期】 現代社会論 (高岡法科大学)	2	0	18	0	1	0	5	26
【前期】 英語プレゼンテーション講義(初級) -学生が考えるインバウンド対策- (富山県立大学)	1	1	0	2	0	0	7	11
【前期】 航空機入門 (富山県立大学)	6	12	0	0	0	0	0	18
【後期】 災害救援ボランティア論 (富山大学)	44	0	14	0	0	0	0	58
合計	109	13	50	42	3	0	36	253

※履修者数に、実施機関の履修者数を含む。

【各機関提供科目】

履修者所属機関名 科目名(実施機関)	富山大学	富山県立大学	高岡法科大学	富山国際大学	富山短期大学	富山福祉短期大学	富山高等専門学校	合計
【前期】 社会福祉論A (高岡法科大学)	0	0	0	0	0	0	2	2
【前期】 東洋の歴史と社会 (富山大学)	0	0	1	0	0	0	0	1
【前期】 心理学 (富山福祉短期大学)	0	0	1	0	0	0	0	1
【後期】 地域ライフプラン (富山大学)	0	0	0	7	2	3	0	12
合計	0	0	2	7	2	3	2	16

※履修者数に、提供機関の履修者数を含まない。

H30.5.8作成